

実践例：小学校国語



ICT活用の場面及び機能とよさをチェック!

単位時間の学習例：第4学年「心の動きを言葉にして、詩を書こう」

1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。

めあて：家族に自分の感動が伝わるように、詩を見直そう。

□ 提示・配布機能

前時までに作成してきた資料を提示して、これまでの学習を振り返らせる。

短時間で！
効率的に！

教材文の詩と学習のポイントを同時に提示し、推敲の観点を確認させる。

2. 前時までに作成した詩を、観点を基に個人で推敲する。

□ データの保存・提出機能

前時までの学習の記録から、収集した情報を見直させ、推敲に必要な言葉を検討し、個人で推敲する。

ノートを撮影して提出し、他の児童と共有させる。

「作品は鉛筆で書かせたい」という教師の意図があるため、ノートに記述させる。

瞬時に！
全員の！

3. 推敲の方法等について話し合い、各自の推敲に生かす。

□ 思考の補助機能

何度でも！
簡単に！

電子付箋を参考に、再度個人で推敲させる。

他の児童の推敲内容をモデルとし、観点到った推敲の方法等を知る。

推敲の観点到って、他の児童へ電子付箋で助言させる。

4. 自分の推敲前後の詩を確認し、本時の振り返りをする。

□ データの保存・提出機能

瞬時に！
全員の！

【児童の振り返りより】
友達と相談して、「家の人に伝わるか」ということをもう一度考えて言葉を直したので、思いが伝わる詩になったと思う。早く家の人に読んで欲しい。

推敲前後の詩を比較しながら、振り返りを書かせ、提出させる。

推敲前

推敲後

振り返りの際に、推敲することの良さを自覚できるように声をかける。